

けん玉 低学年1・2】

- 体験的な活動を取り入れた事例 -

(1) 主題名 何事にも粘り強く〔1・2〕

(2) ねらい 自分で行わなければならないことやしようと思ったことは、最後まで粘り強く行おうという心情を育てる。

(3) 資料名「けん玉」

(4) 授業の展開例

	学習活動	主な発問と児童の心の動き	留意点
導入	1 顔のイラストを見て考える。 	この顔はどんなときの顔でしょうか。 ・喜んでいる顔 ・つまらない時の顔 ・がんばっている顔	自分ががんばった場面や、できなかった場面を想起させる。
展開	2 「けん玉」を読んでよしえの気持ちについて話し合う。	けん玉を練習する前のよしえはどんな気持ちだったでしょうか。 ・がんばって上手になるぞ。 ・すぐにできるようになるよ。 けん玉を練習している時、よしえはどんなことを考えていたのでしょうか。 ・できないのでやめようか。 ・参観日にできなかつたらいやだな。 ・けん玉にするんじゃなかった。 ・もう少しがんばってみようかな。 ・あきらめずにがんばったからできるようになってきたぞ。 ・練習をやめないでよかったな。 ・もっと上手になるぞ。	最初は、期待と意欲をもって始めたことをおさえる。 実際にけん玉を用意し、児童に体験させる。 がんばる気持ちとやめてしまいたい気持ちの2種類のペーパーサートを用意し、よしえの葛藤を表現させる。 だんだんと上達していく時のよしえの気持ちを考えさせる。 しんどいことをやめずにやりきったときの喜びや満足感に気付かせる。
開拓	3 やり切ったときの気持ちについて話し合う。	発表が終わり、みんなの拍手を聞いた時、よしえはどんなことを考えたでしょう。(ワークシートに書く) ・あきらめないでよかったな。 ・がんばった甲斐があったな。	
	4 自分の生活を振り返る。	最後までやってよかったことや、今がんばっていることを教えてください。 ・縄跳びができるようになった。 ・計算カードが速くなった。	日常の様々な場面でがんばっている児童を紹介する。
終末	5 教師の説話を聞く。	・がんばることってすてきだな。	努力してできるようになった事について話す。

カバン

「せっつや、おじだが、『ア オヤヒツ、スハア カント カバン…。』も、生かつ
かのじかで、ねかしのあがひにこじかくしま、ハントこま。

じふとやつたこあがひを、ハビムシでれんじま、ハシ、わんかんロリザハビム
ハキルトになつまつた。

よしへせ、カバンをもつた。ド物のよひになつたかつたし、ねじてねやんが
じゅつかはのど、よしへトモリバウトをもつたからだ。

「え」かべぬと、わくわくするよひにこじかくしま、さとれんじま、ハセジもつた。

カチン…カチン…。

「あれ? なに? どればこのかた?」

あぐにド物のよひにこじかくしま、なかなか大きいやうのつまセレ。
十ふぶくハシモシ、ハシモシ、だんだんこやになつた。

ねじてねやくせ、それこへむつべられましたが、よしへせ、なかなかだも
アハニあつまセレ。

「ハヒヒヒ、よしへせ、カバンをくやのすきにせつなせ、あわづりそでつま
こまつた。ハコト、ハコト、ハコト、ねいたまが、カバンを睨つたこまつた

「のびのびこじかく、たつたドンヒペ、よしへせ、立かねがね、せいつなげた
せんせをひこまつた。アシトモタ、れんじま、つせざじもつた。

カチン…カチン…。田がわにあたつしもがまく、これもこをつたおもい、かお
こあたつしもがわあつまつた。カチン…カチン…カチン…カチン…。

「ハビムシ、ひわをめざして、手ぐびをしつかうとつて、田の畠やで…。」

よしへせ、せじこかや、そひむしで、わくわくした。だしながら、なんじも
なんじも、カチン…カチン…。

ひわが、いたくはつしもがつた。ハビムシ、だらくはつしもがつた。のぶわかわ
わもがつた。それでも、カチン…カチン…。カチン…カチン…トバ。

「あー。」

せじゆト大ざまのつまつた。

「おにこかやん見て、見て。のつたよ のつたよ」
よしへはいれしょくなつておじこがくじこをした

カチン…カチン…カチン…トン。十かいに一かいぐらごのねむりになつま
た。

カチン…カチン…トン。四か三に一か二ぐらごのねむりになつまつた。

ぱくじさんのおじや よしへは あひと カチン…トヘ…カチン…トヘ…トヘ。
つわの口や あだつわの口や よしへはねんしおうせりが土ました

れんかくざぶの口やあほつた。こよこよ よしへのせとどく。よしへの土と地の用
が、まよ大ぞひじょん。つわじゆわもじょん。やつてせわもじょん。セコロジカル
に、ストンと入つました。

「あー」とね。

「じょ、げきだね。」

ねづかの人たちや、ともだちの大好きなくしゅがきいじめます。
よしへせ みんなのかおをみて じつじつほつた。

活用に生かすための実践報告

「けん玉」

1 主題の設定

・児童にとって、自分の能力の向上や新しい知識・技能の獲得に根気強く取り組むこと、また、自分でしようと考えたことやしなくてはいけないことに対して、最後まで粘り強く一生懸命に取り組むことは、自立していく上で大切な資質であると考える。苦しくてもがんばって成し遂げること、そして、少々のことであきらめずにがんばることが自分を高め、生活の質や心情を豊かにしていくことにつながることをこの資料を通して伝えたい。

・この頃の児童の様子を見ると、自分に自信があることや目新しいことに対しては意欲的に取り組むが、興味・関心が薄いことや時間のかかる活動や反復練習が要求される活動に対しては、自分にはできないと途中であきらめてしまったりする場面がよく見られる。
・本資料を通して「かんばること」そのこと 자체に価値があるということ、「自分には努力すればできるようになることがたくさんある」ということに気付かせたい。

2 指導過程の工夫

・指導に当たっては、実際にけん玉をさせてみたり、ペーパーサートを使った役割演技をしたりする活動を通して、練習をやめようか、それとも続けようかと葛藤する主人公の心情に十分に寄り添わせ、それを自分の経験と重ねることで共感させたい。がんばって努力してよかったですという達成感やくじけそ

うな気持ちを乗り越えることができたという自己肯定感、そして、途中であきらめなかつたからこそ味わえた満足感に気付かせることで、今後、何事に対してもあきらめずにがんばろうという意識を高めたい。

3 発問の工夫

・主人公の葛藤に十分共感させることができ、迷いを乗り越えて練習し、できるようになったときの満足感を児童が共有することにつながると考えられる。そこで、主人公の「がんばろうとする気持ち」と「やめてしまおうという気持ち」の両方を大切に扱いたい。

4 児童の反応（授業後の感想）

・低学年の児童には、体育科での縄跳びや逆上がりや、生活科でのコマやけん玉などの昔から伝わる遊びなど、本資料の主人公と同じ経験をする機会がたくさんあるので、共感しながら資料を読むことが容易であった。

5 実践者からの一言

・「がんばることは楽しいんだ」という気持ちがもてるよう、「がんばる機会」を普段の実践の中でたくさん用意し、児童のがんばりに対してはいつもあたたかい声かけをするようにしたい。

（東浄小学校 梅田広晴）